体細胞数の改善をねらいとした搾乳衛生技術指導

酪農家 4 戸について搾乳立会を含む衛生指導を実施した。

農家での問題点として、①前搾りを実施していない、②ミルカーの離脱が遅い、③黄色ブドウ球菌感染牛に対して治療を続ける、あるいは生乳廃棄をしているなどで、これらについて指導を実施した。

前搾りを実施していなかった農家では前搾りを実施することで搾乳時間が短縮された。黄色ブドウ球菌感染牛については、細菌検査を行った培地を実際に見せることで菌の多さが実感され、淘汰あるいは盲乳処置がなされた。その結果、指導前の体細胞数が 140 千～566 千個／ml であったものが指導後には 72 千～284 千個／ml と減少した。

今回、改善を指導した乳頭刺激と過搾乳防止は以前から言われていることであり、農家もその意義についての知識はあったが、「現状より作業が増える」、「早期離脱による乳量の損失」が不安だったことから、今回指導を受けるまで実施していなかった。黄色ブドウ球菌感染牛については治癒するのではないかという期待がネックであった。改善後の農家の話では、体細胞数の減少もさることながら、明らかに搾乳時間が短縮されたり、あきらめきれなかった乳房炎感染牛の実態を目で確認できたことが一番であった。